



桐生織物を展示・販売 産地の魅力を発信する中核施設

織物資料展示室・桐生織物販売場（桐生織物記念館内）

昭和9年（1934）に桐生織物同業組合（現桐生織物協同組合）の事務所として建設された桐生織物記念館。織都桐生において、常に業界の中核に位置し機能してきたのが同組合であり、その拠点として50年近く活用されたのが現在の織物記念館であった。平成13年（2001）には現名称に改称され、繊維産業を貴重な観光資源に位置づける桐生市にあって、その中核施設として平成24年（2012）年8月には、2階に織物資料展示室と1階に桐生織物販売場が整備され、桐生織物を発信する拠点として生まれ変わった。

織物資料展示室では、桐生織の歴史と伝統、産地から生み出される製品の多彩さ、そして過去から現在までの移り変わりを多彩な資料で分かり易く紹介している。伝統的工芸品「桐生織」をはじめ、明治期に製織したとされる明治天皇の織物肖像画など歴史的に貴重な製品や、明治から平成までの帯地や洋服地、輸出に貢献し産地を支えたテキスタイル生地など、各時代の綿密な仕事ぶりを見ることができる。また、織物以外にも各種織機、「紋紙」に穴をあけるための紋彫機（通称ピアノマシン）など、通常、人の目に触れることの少ない機械や道具類も並ぶ。他にも、映画の撮影用に製作された衣装から、最新技術を用いた先端素材まで繊維にかかわる幅広い展示物で産地・桐生の奥深さを伝えている。

桐生で作られている繊維製品が並ぶ桐生織物販売場は、記念館の入口から左右に広がる。和装小物をはじめ、桐生織の帯や着物、雑貨を取り扱い、展示スペース「織匠の間」では定期的に展示会が開催されている。また、洋装の繊維製品も取扱い、服地を応用した服飾雑貨品のほか、テキスタイルも生地売りをおこなっている。本格的な着物や帯からテキスタイル、繊維雑貨まで、幅広い桐生ならではの産品を一堂で紹介する施設でもある。

来桐者から一般の方まで立ち寄ることができる記念館内の二施設は、織都1300年の歴史から気軽に手に取れる繊維製品まで、産地桐生がもつ魅力やそこに息づく日本のものづくりのダイナミズムを感じ取ることができる。

- 場所／桐生市永楽町6-6 ●電話／0277-43-2510（織物資料展示室）・0277-43-7272（桐生織物販売場）
 - 開館時間／10：00～17：00 ●休館日／8月13日～16日・12月29日～1月3日（ほか臨時休館日あり）
- ※販売場は毎月最終土曜日と翌日曜日も休館